「ツーリズムEXPOジャパン2017」特集

観光業界、経済界からの期待

全国旅行業協会会長 二階 俊博

さまざまな国や地域との双方向交流を

観光の発展は、人と人との交流が原点です。当協会では、本年3月3日に石川県金沢市において「第12回国内観光活性化フォーラムinいしかわ」を開催し成功裏に終了し、地域の観光資源を生かした旅行業の発展と交流につながる内容となりました。

また、国際観光においても、アジアをはじめさまざまな国・地域との双方向の交流を大切にして、観光を通じた民間レベルの交流が盛んに行われることによって国同士のさらなる発展につなげることができるものと確信しております。「ツーリズムEXPOジャパン2017」が、世界に向けてアジアの観光の大きな可能性を発信することを期待しております。

最後に、「ツーリズムEXPOジャパン」が、さらなる日本の観光産業の躍進、観光立国の推進に大きく寄与されることを祈念し、お祝いの言葉といたします。

国連世界観光機関 駐日事務所代表 本保 芳明

世界的イベントへの進化を期待

一つ上がり、2020年訪日外国人客数4千万人を目指して、大きく歩を踏み出しました。

観光立国元年とされる2003年から、今日に至るまでの観光立国の力強い歩みは、まさに官民一体の取り組みの成果であり、世界のモデルになり得るものだと思っております。

中でも、「ツーリズムEXPOジャパン」は、日本政府観光局、日本観光振興協会および日本旅行業協会の三者が、それぞれに歴史を積み重ねてきたイベントを、大同団結して、より未来志向で大規模かつ総合的なB2C、B2Bイベントに仕立て上げ、世界に問うている点において、官民一体の取り組みの象徴的な事業といって差し支えありません。

そのツーリズムEXPOジャパンも、3年を1周期とすれば、今年は第2周目の初年度に当たり、主力3団体が主催者としてそろい踏みをして新体制でスタートし、わが国観光界の総力を挙げての大イベントになったことは、誠にご同慶の至りであります。

各般にわたるプログラムの充実にも目覚ましいものがあり、特に主眼としているB2Bの取り組み強化は注目に値し、いよいよ世界的イベントへと進化していくことが期待されています。このイベントの成功は、アジア全体の観光の活性化につながるものとして、私どもUNWTO（国連世界観光機関）も強い関心を抱き、同駐日事務所を中心に全面的にサポートしているところであります。

観光庁長官 田村 明比古

「観光先進国」実現へ新たな挑戦

世界最大級の旅の祭典「ツーリズムEXPOジャパン2017」と、国内最大のインバウンド商談会「VISIT JAPANトラベル&MICEマート2017」が本年も開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

政府では、観光を我が国の成長戦略、地方創生の大きな柱と位置づけ、昨年3月に策定した「明日の日本を支える観光ビジョン」およびそれを踏まえた「観光立国推進基本計画」に基づき、官民一体となって、さまざまな施策に積極的に取り組んでいるところです。

同ビジョンにおいては、国を挙げて、観光先進国という新たな挑戦に踏み切ることとし、従来の訪日外国人旅行者数に加えて、訪日外国人旅行消費額、地方部での外国人延べ宿泊者数、日本人国内旅行消費額などの新たな目標を掲げ、質の高い観光交流を加速させて高めていく必要があります。ビジョンに掲げた施策のほとんどは、インバウンドだけでなく、国内旅行促進にも資するものであり、こうした取り組みを、国と地方、官と民が密接に連携して進めていかなければなりません。

そのような観点から、「ツーリズムEXPOジャパン2017」と「VISIT JAPANトラベル&MICEマート2017」は、海外旅行、国内旅行、訪日旅行の国内外関係者が一堂に会する旅行・観光の総合イベントであり、非常に意義深いものと言えます。

このイベントは、商談会、展示会、セミナーなどを通じて、多くの関係者が情報・知見を共有、発信し、そしてビジネスに結びつけることができる貴重な機会として着実に定着してきております。

特に本年からは、BtoB向けに商談会が強化されることとなり、旅行・観光産業のビジネス開拓と発展を後押しするものと考えております。

また、一般の方々にも、国内47都道府県、世界から約140の国・地域が出展する展示会を通じ、多様な切り口から旅行意欲を高めていただく絶好の機会となります。

4回目を迎える本年も、昨年以上に盛り上がりを見せ、ビジョンに掲げる観光先進国の実現に資するものとなることを大いに期待いたします。

日本商工会議所 観光共同委員長 須田 寛

観光交流の世界的〝ひろば〟に

今年も9月に「ツーリズムEXPOジャパン」が開催されます。年々内容の質的・量的充実が進み、今や名実共に世界最大級の観光イベントとなりました。

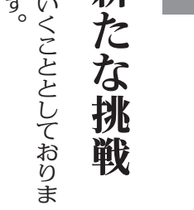
今年は特に内外の観光商談会の充実を図り、観光の経済効果、交流効果を高めることに重点が置かれます。即ち外国からの観光客受け入れに伴う商談会はその国数、時間を拡大充実させるほか、新たに国内旅行会社とホテル、レストランなどとの商談会、旅行会社と在日ランドオペレーターとの商談会なども開き、多くの観光の成約を目指しています。

私共の団体もツーリズムEXPOジャパンの組織会議にメンバーとして着実に成長を遂げており、さまざまな産業との相乗効果により、経済成長の一翼を担うことが期待されています。

こうした中、4年目を迎えるツーリズムEXPOジャパンが、世界的な観光TO本部と私共の事務所が一体となって応援させていただくことをお約束して、ごあいさつとさせていただきます。

日本経済団体連合会 観光委員長 冨田 哲郎

観光の「質」のあくなき追求を



本年も、「ツーリズムEXPOジャパン」が盛大に開催されますことは、産業界のみならず、日常生活における観光への注目の高まりを示すものとして、大変喜ばしく感じております。

2020年の訪日外国人旅行者数4千万人、インバウンド消費額8兆円等の意欲的な目標の達成に際して、これまで培ってきた産学官等の密な連携をベースとした「オールジャパン」の体制のもと、すべての関係者が一致団結し総力を挙げて取り組む必要があります。

特に、観光先進国への飛躍を目指すわが国にとり、地方への誘客推進等の需要面、観光産業の生産性向上等の供給面、それぞれの解決は喫緊の課題です。観光の「質」に対するあくなき追求を通じ、世界に冠たる観光市場を創出しなければなりません。

日本の旅の魅力を余すところなく堪能できる機会、観光の「稼ぐ力」を向上させて地域経済の活性化につなげていく機会としてツーリズムEXPOジャパンを位置づけ、わが国の観光産業が力強さを一層増していく契機となることを心より祈念しております。

日本経済団体連合会 観光委員長 冨田 哲郎

観光の「質」のあくなき追求を

迎えるツーリズムEXPOジャパンは、国内外から約1200の出展数、18・5万人の来場者数を誇る世界最大級の旅の祭典として、その存在感は揺るぎないものとなりました。

とりわけ、一般の方を含めた来場者数が年々増加していることは、産業界のみならず、日常生活における観光への注目の高まりを示すものとして、大変喜ばしく感じております。

2020年の訪日外国人旅行者数4千万人、インバウンド消費額8兆円等の意欲的な目標の達成に際して、これまで培ってきた産学官等の密な連携をベースとした「オールジャパン」の体制のもと、すべての関係者が一致団結し総力を挙げて取り組む必要があります。

特に、観光先進国への飛躍を目指すわが国にとり、地方への誘客推進等の需要面、観光産業の生産性向上等の供給面、それぞれの解決は喫緊の課題です。観光の「質」に対するあくなき追求を通じ、世界に冠たる観光市場を創出しなければなりません。

日本の旅の魅力を余すところなく堪能できる機会、観光の「稼ぐ力」を向上させて地域経済の活性化につなげていく機会としてツーリズムEXPOジャパンを位置づけ、わが国の観光産業が力強さを一層増していく契機となることを心より祈念しております。

EXPO出展の藤田観光

ホテルグレイスリー浅草を来秋開業

ツーリズムEXPOジャパン2017にブース出展する藤田観光はこのほど、東京建物が東京都台東区に建設を予定しているホテル計画への出店に関して賃貸借予約契約を締結したと発表した。

ホテル名称は「ホテルグレイスリー浅草（仮称）」。開業は、来年秋を予定している。ホテルグレイスリーブランドとしては今年5月開業の京都三条に続き10店目となる。

浅草エリアは、成田や羽田からのアクセスも良く、浅草寺・雷門などの名所もあり都内有数の訪日外国人が訪れる観光都市。同社は「ホテル出店地は、雷門から徒歩1～2分に位置し、国内外の観光・レジャーの拠点として最適な立地」として

外観イメージ

ホテル客室数は12月に「木更津ワシントンホテル」、2018年夏に「ホテルグレイスリー台北（仮称）」を出店する計画も進めている。「今後もさらなるブランドの拡大を推進する」と同社。

ホテル客室数は125、客室面積はシングル（ダブル）ルーム約18平方㍍、ツインルーム約24平方㍍で設定。水回りは「独立型バスルーム」を全室に導入する。コンシェルジェデスクも配置する。

藤田観光では、今年10

ドライブコースを自動診断

JAF EXPOブースで紹介

日本自動車連盟（JAF）は、今回のツーリズムEXPOジャパンに「ENJOY DRIVE（エンジョイ・ドライブ）」をテーマにブース出展する。

診断チャートをもとに海、山、温泉、ショッピングなど、参加者に一番お薦めのドライブコースを診断するコーナーを設ける。参加者には、診断結果のお薦めドライブコース情報が掲載されているJAFナビ」へのリンクQRコード付きカードを配付する。

また、自動車の利便性を紹介する映像を、「専用クルマ型サイネージコーナー」で放映する。自動車の利便性が分かるシーンの映像を見てもらいドライブ旅行を想起する。

2人のステージアクターによるお得で便利なJAFナビの機能や使い方を紹介するステージも展開する。

それぞれ体験してくれた人にはJAFオリジナルエコバックやドライブに役立つネックピローなどをプレゼントする。

JAFお得ナビを使えば、出先でも簡単に優待施設が検索できる。JAFでは「お得」なドライブ旅行を提案する。

ツアーコンダクター表彰

グランプリに中田氏（エイチ・アイ・エス）

ツーリズムEXPO会場で表彰式

TCSA

グランプリの中田氏

準グランプリの大矢氏

日本添乗サービス協会（TCSA、三橋滋子会長）は9月22日、ツーリズムEXPOジャパンの会場で、優秀な添乗員（ツアーコンダクター）を讃える「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2017」表彰式を開く。今年は第12回。グランプリ（国土交通大臣賞）には、エイチ・アイ・エス所属の中田啓司氏が選ばれた。

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤーは、日頃、黒子として裏方に徹しているプロの添乗員に光を当てモチベーションアップを図ることを目的とした職業表彰。「旅の演出家」であるツアーコンダクターが誇りを持って添乗を続けられるように制度の認知に努めている。国土交通省、観光庁などが後援。

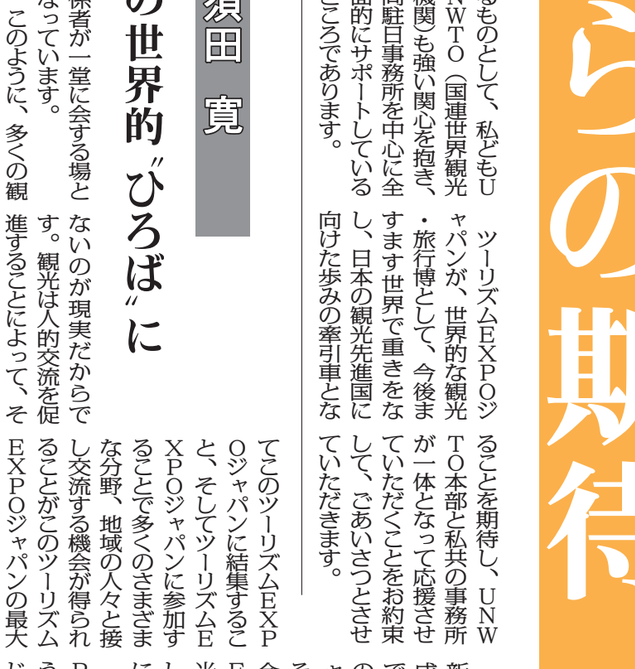
グランプリの中田氏は、添乗歴22年、添乗日数3900日のベテラン添乗員。JATAエリアスペシャリスト、添乗員能力資格認定1級、観光地理1級など、旅行関連資格も数多く取得。現役ジャパン所属の岡崎篤子氏。ツアー中、母娘で参加の母親がホテル内で急死するという緊急事態が発生。遺族である娘が突然のことで動揺する中、寄り添った対応を行い、感謝された。

小中高の修学旅行をはじめ富裕層向けパッケージツアーなどで1年間のスケジュールが埋まってしまう人気添乗員、J&Jヒューマンソリューションズ所属の稲垣美穂氏が会長賞に。

奨励賞は、玉井成美（ジャッツ所属）、清野和華（旅行綜研所属）、泉田架奈（ヒト・コミュニケーションズ所属）、望月一久（J&Jヒューマンソリューションズ所属）、橋本崇（同）、松月猛（同）、福田奈奈緒（ツーリストエキスパーツ所属）、林亜子（ANAセールス所属）、雨川和世（エイチ・アイ・エス所属）の各氏。

会場は東京ビッグサイトの東3ホールBステージ。開催時間は午後4時45分から6時まで。

表彰式のほかステージでは、パネルディスカッション「ベテラン添乗員が語る　より良い旅作りのために」も開催。海外でのテロや内戦、国内でのバス事故や自然災害など、旅行先で危機管理が重要視されている。ツアー客に一番近い存在であるベテランで、ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー2017を受賞した添乗員が、添乗員同行ツアーの魅力、添乗力（危機管理能力）、有用性などについて語る。

パネリストは、グランプリの中田氏、準グランプリの大矢氏、委員長賞の岡崎氏、会長賞の稲垣氏。モデレーターは、JTB総合研究所の髙松正人常務取締役が務める。

2016年の展示会場の様子